

IV 花 き

1. デルフィニウム（ラクスパー）

- (1) シーオーワン（系統名 CO-1）1995年
登録番号：（北海道）花き類北海道第1号
（種苗法）第7920号

セールスポイント

従来にない白地に紫色の刷毛目の入った複色品種で、晩生のため秋出荷作型での品質も良好である。

来歴 本品種は、1990年に北海道立中央農業試験場において、導入品種「ブルースパイヤー」の色変わり個体を自殖で採種し、その後、選抜・育成された。1994年から「CO-1」の系統名で各種試験を行い、1995年に優良品種となった。

特性概要

1. 花色は白地に紫色の刷毛目の入った複色で、従来に

ない花色である。がく片では外層と内層の刷毛目の色調は異なり、内層の方がやや赤味を帯びる。

- 刷毛目の入り方の濃い個体がわずかにあり、花色の濃淡は連続的である。
- ラクスパーの品種群中では晩生品種である。
- 花穂長は市販品種と比較してやや長く、着花密度（花の付き方）はやや低い。
- その他の切花形質は市販品種並である。
- 落花の難易、耐寒性、耐暑性、病害・虫害抵抗性は市販品種並である。
- 切花形質のばらつきは市販品種に比べ小さく、そのため出荷分留まりが高い。

栽培適地と奨励態度

全道一円の施設、雨よけ栽培で作付け可能である。栽培は慣行栽培に準ずる。

場所名	品 種 名	到 花 日 数 (日)	採花率 (%)	異色 割合 (%)	切り花長 (cm)	同 左 変動係数 (%)	切り花重 (g)	花穂長 (cm)	花蕾数 (個)	試験年次
中央農試	シーオーワン	102	85.5	0	113.5	14.1	91.8	43.0	22.1	1994 ~1995
	ブルースパイヤー	91	92.8	0	104.0	22.7	84.7	36.9	18.6	
	ホワイトスパイヤー	104	68.8	0	105.4	10.9	91.9	39.7	24.8	
道南農試	シーオーワン	97	76.5	0	92.4	16.8	62.0	39.0	22.5	
	ブルースパイヤー	89	76.0	0	79.7	22.3	51.1	33.5	16.2	
	ホワイトスパイヤー	98	57.5	0	85.7	18.8	63.9	32.2	24.7	

注 1) 4月上旬、5月下旬播種作型の平均値

参照 1) 北海道農政部編，平成8年普及奨励ならびに指導参考事項，22-24（1996）。

2. 花ゆり

- (1) きたきらり（系統名 Li-9号）2003年
登録番号：（北海道）花ゆり北海道第7号
（種苗法）第 号

セールスポイント

草姿の形状が良く、切花収量が極めて高く、栽培が容易な小輪性品種である。

来歴 本品種は、1994年に北海道立中央農業試験場と花・野菜技術センターにおいて、小輪品種の育成を目標とし、アジアティック系品種「モナ」を母、野生種チョウセン

ヒメユリ (*Lilium concolor ver. pulchellum*) を父として、花柱切断受粉法による交配と胚培養により得た雑種から育成された。2001年から「Li-9」の系統名で各種試験を行い、2003年に優良品種となった。

特性概要

- 冷凍貯蔵球を用いた5月定植栽培での到花日数は「モナ」より約3日早く、チョウセンヒメユリより約8日遅い。
- 花色は鮮橙色で花卉基部に微小な暗灰赤色の斑点を有する。花形はスカシユリ型で、花径はチョウセンヒ

メユリよりやや大きい、「モナ」より明らかに小さい小輪咲きである。チョウセンヒメユリのような不快臭はほとんどない。

3. 花蕾数は、「モナ」やチョウセンヒメユリより少ない。花房の形は総状で第1花梗の向きは垂直より約40度、花向きは垂直より約10度で、箱詰めにも適した花房形状である。
4. 草丈は「モナ」やチョウセンヒメユリより短い、茎長は「モナ」より長く花房と茎長のバランスが良い。葉形は披針形で弱い光沢を有する。葉枯病の発生は、チョウセンヒメユリより軽微であるが「モナ」よりやや多い。

5. 多芽性で1個の球根から約4本の花茎が伸長するため、規格内（花蕾数3個以上）採花本数は、「モナ」やチョウセンヒメユリを大幅に上回る。
6. 日持ち性は「モナ」と同程度である。
7. 増殖性はチョウセンヒメユリより高い。二年目養成栽培後の肥大性に優れ、分球性が強く、切花栽培に用いる二年養成球は多芽球となる。

栽培適地と奨励態度

全道一円のゆり栽培（施設栽培）に適する。アジアティック系品種としては葉枯病がやや発生しやすく、発生動向に注意し適切な防除を行う。

場所名	品 種 名	到 花 日 数 (日)	草 丈 (cm)	花 径 (mm)	花蕾数 (個/本)	花梗長 (cm)	花茎数 (個/球)	採花本数		葉 枯 発 生	試 験 年 次
								規格内 (本/a)	規格外 (本/a)		
花・野菜 センター	き た き ら り	65	79.5	91	3.8	4.5	4.0	(14302)	(3118)	少	2001 ~2002
	モ ナ	68	85.5	163	5.9	8.2	1.0	(4221)	(0)	微	
	チョウセンヒメユリ	57	109.8	76	8.4	5.4	1.0	(2222)	(0)	中	

注 1) 供試作型は冷凍貯蔵球利用5月定植（供試球根は球周12-14cm）。採花本数は2002年のみの結果。
2) 葉枯発生：無-微-少-中-多（観察による評価）。

- 参照 1) 北海道農政部編，平成15年普及奨励ならびに指導参考事項，19-21（2003）。
2) 大宮 知等，北海道立農試集報，87，1-8（2004）。

- (2) Li-19（系統名 Li-19）2004年
登録番号：（北海道）花ゆり北海道第8号
（種苗法）第 号

セールスポイント

小球根での開花性や切花特性に優れ、花形と草姿はシンテッポウユリの形態で、斑点のない鮮やかな花色の小輪性品種である。

来歴 本品種は、1998年に北海道立中央農業試験場と花・野菜技術センターにおいて、小輪性テッポウユリタイプ切花用品種の育成を目標に、シンテッポウユリ「ホワイトランサー」を母、野生種チョウセンヒメユリを父として、花柱切断受粉法による交配と胚珠-胚培養により得た雑種から育成された。2002年から「Li-19」の系統名で各種試験を行い、2004年に優良品種となった。

特性概要

1. 冷凍貯蔵球を用いた5月定植栽培での到花日数は、「ロイヤルトリニティー」や「きたきらり」と同等で、チョウセンヒメユリより長い。
2. 花色は「きたきらり」よりやや淡い、透明感のある

鮮橙色で斑点はない。花形は「きたきらり」のスカシユリ型に対しテッポウユリ型とスカシユリ型の中間で、花径は「きたきらり」よりやや大きい「ロイヤルトリニティー」より明らかに小さい。花粉は赤橙色で香りはない。

3. 花蕾数は、多輪性のチョウセンヒメユリより少ないが「ロイヤルトリニティー」より明らかに多い。花房の形は総状で花梗はやや長い、花梗と花の向きは上向きのためコンパクトで箱詰めしやすい形状である。
4. 草丈は「ロイヤルトリニティー」やチョウセンヒメユリと同等である。止葉下節間長がやや長く、葉は長楕円形で着生角度は垂直より約70度である。葉枯病の発生は、「ロイヤルトリニティー」より多く、「きたきらり」と同等である。
5. 觀賞日数は、「ロイヤルトリニティー」よりやや短い、実用的な日持ち性は有している。
6. 増殖性は「ロイヤルトリニティー」とほぼ同等である。球根肥大性にも優れる。さらに小球開花性が高いため、多くの一年球を切花栽培用として利用することが可能である。

栽培適地と奨励態度

全道一円のユリ栽培（施設栽培）に適する。多輪性が強いので大球の使用は避け、球周8～10cm（平均花蕾数5～7個）または10～12cm（同7～8個）の小球根を使

用する。また、球根生産では球周8～12cmの一年球を出荷し、8cm未満の極小球のみ2年養成を行う。葉枯病がやや発生しやすいので、発生動向に注意し、アジアティック系品種に準じた適切な防除を行う。

場所名	品 種 名	球 周 (cm)	到 花 日 数 (日)	草 丈 (cm)	茎 長 (cm)	止葉下 節間長 (cm)	花 径 (mm)	花 蕾 数 (個/本)	花 梗 長 (cm)	採 花 本 数 (本/a)	葉 枯 発 生	試 験 年 次
花・野菜 センター	L i - 1 9	10-12	64	104	75	9.5	98	7.9	8.6	4444	少	2002～ 2003
	ロイヤルトリニティー	12-14	64	104	84	6.7	165	5.0	5.3	4444	微	
	チョウセンヒメユリ	12-14	55	108	84	5.0	76	14.6	5.3	2222	中	

- 注 1) 供試作型は冷凍貯蔵球利用5月定植。
 2) 採花本数は花茎数と障害株等の発生率から算出。
 3) 葉枯発生：無－微－少－中－多（観察による評価）。

参照 1) 北海道農政部編，平成16年普及奨励ならびに指導参考事項，13-16（2004）。